

6 階

(1) 松本城の守護神

大天守の屋根の下にある祭壇には、松本城の守護神といわれる二十六夜神が祀られている。ある晩、見張りの前に現れた二十六夜神は、毎月二十六夜に三石、三斗、三升、三合、三尺の米（合計約 500kg）を供えると城主が栄えると告げ、その通りにしたという伝説がある。この習慣は、1617 年に戸田康長（1562-1633）が城主となってから始まったと言われている。これは東日本にあった康長の出身地に伝わる民間信仰と関係があったのだろうと考えられる。

(2) 桔木の屋根

瓦屋根の重い重量を支えるために、梁と上垂木の間には桔木を設ける必要があった。この技術の基本原理解は「てこの原理」である。図のように、太い桔木が外壁の上に乗って支点となる。瓦の荷重は、屋根の中央にある支柱にかかる力によってバランスが保たれる。

このような技術は、鎌倉時代（1185～1333 年）に始まった寺院建築に用いられた。乾小天守の 4 階には、この桔木を小型化したものも見られる。

(3) 消えたバルコニー

1950 年代の修理の際、もともと 6 階の外側が手すりのついたバルコニーになっていたことがわかった。しかし、松本の冬の厳しさや雨風による被害を考慮してか、後に閉鎖された。

展示品

1952 年の国宝指定証（レプリカ）

松本城は 1930 年に国宝に指定されたが、戦後の文化財保護法の施行に伴い、1952 年に国宝に再指定された。大天守、乾小天守、渡櫓、辰巳附櫓、月見櫓の 5 つの建築物すべてが指定対象となった。

市川量造の懇願書（レプリカ）

1870 年代、松本城は競売にかけられ、取り壊しの危機にさらされていた。市川量造（1844-1908）は、松本城を守るために県知事宛に嘆願書を送った。彼は、城の売却を 10 年以上先延ばしにすること、城内で公募展を開催することを主張した。その結果、1873 年から 1876 年にかけて 5 回の美術展、工芸展、技術展が開催された。これらの懇願書の原本は、松本市立博物館に展示されている。

本丸入口付近には、市川ともう一人の人物に関する記念碑がある。